

第 24 回 愛媛形成外科研修会
抄 録 集

日 時：平成 21 年 12 月 12 日（土）17 時 30 分～

場 所：独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター

3 階 研修室

（松山市南梅本町甲 160 TEL 089-999-1111）

当番世話人：愛媛県立中央病院 形成外科 小林一夫

第 24 回 愛媛形成外科研修会

研修会

1. 受付は当日 17 時 00 分より会場で行います。
お車でお越しの方は、誠に申し訳ございませんが一律 100 円の駐車料
金がかかります。
2. 参加費は 2000 円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 討論時間は、一題あたり 5 分を予定しております。
5. 発表形式は Windows Power Point 2003 による PC プレゼンテーション
をお願いいたします。(当日は USB メモリーあるいは PC 本体を持参し
て下さい。)

研修会総会

18 時 55 分から同会場にて行います。

連絡先

〒790-0024 愛媛県松山市春日町 83
愛媛県立中央病院 形成外科 小林一夫
E-mail: kobak@silver.plala.or.jp
TEL: 089-947-1111

会歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	名

独立行政法人 国立病院機構

四国がんセンター

愛媛県松山市南梅本町甲 160

(TEL : 089 - 999 - 1111)

最寄り駅：伊予鉄横河原線 梅本駅下車 徒歩 5分

伊予鉄横河原線 牛湍団地前駅下車 徒歩 6分



プログラム

Section1(17:30～17:55)

座長 李 龍二

1. 頬部に発生した化骨性線維粘液性腫瘍の1例
松山赤十字病院 形成外科 吉井 聡佳
2. 比較的大きな頭部 BCC の1例
市立宇和島病院 皮膚科 野澤 竜太
3. 右鎖骨部に生じた隆起性皮膚線維肉腫
四国がんセンター 形成外科 鈴木 良典

Section2(17:55～18:30)

座長 中川 雅裕

4. 皮膚原発 epithelioid hemangioendthelioma (EHE) の1例
済生会今治病院 形成外科 戸澤 麻美
5. 小児ペースメーカートラブルの2例
愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班 見崎 麻由
6. 刺青に対する Tissue Expander (TE) のトラブル例
愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班 森 秀樹
7. 整復困難な下顎骨体部骨折整復の1例
愛媛県立中央病院 形成外科 李 龍二

Section3(18:30~18:55)

座長 田中 伸二

8. 高齢者前腕再接着の1例

愛媛県立中央病院 形成外科 尾崎 絵美

9. 当院で行っている頭頸部再建時の内頸静脈本幹への端側吻合の実際

静岡県立静岡がんセンター 形成外科 永松 将吾

10. 糸を用いた釣り針抜去術 (string 法) の経験

愛媛労災病院 形成外科 加藤 嘉秀

Section 1 (17:30~17:55)

座長 愛媛県立中央病院 形成外科 李 龍二 先生

1. 頬部に発生した化骨性線維粘液性腫瘍の1例

松山赤十字病院 形成外科

○吉井聡佳

(3分)

症例は61歳男性。5年以上前より左頬部に腫瘤を自覚。徐々に増大してきたため当科受診。手術の結果、化骨性線維粘液性腫瘍との診断であった。まれな腫瘍であるため、若干の文献的考察を加えて報告する。

2. 比較的大きな頭部 BCC の一例

市立宇和島病院 皮膚科¹⁾ 愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班

○野澤竜太¹⁾ 薬師寺直喜¹⁾ 山下昌宏

(3分)

症例は72歳、女性。10年前より頭部に病変を認め、徐々に増大したとのこと。頭頂部に8×5×4cmの肉芽様ドーム状腫瘤を認めた。頸部のリンパ節腫大は認めず、当院での治療を希望されたため、骨膜上で切除し、分層植皮術を行った。臨床的にSCCと思われたが、病理組織学的結果はBCCであった。検査、手術の方法などにつき、ご意見をいただきたい。

3. 右鎖骨部に生じた隆起性皮膚線維肉腫

国立病院機構 四国がんセンター

○鈴木良典 河村 進

(5分)

症例は40歳男性。約30年前に右鎖骨部に赤色の色素斑が出現。徐々に大きくなってきたが放置していた。ここ2,3年で増大速度が大きくなってきたため、当科受診。MRIで隆起性皮膚線維肉腫が疑われたため、marginを3cmとって、鎖骨骨膜、筋膜とともに切除を行った。切除部は、Deltoscapular flapで鎖骨上をcoverし、皮弁挙上部、その他の部位は分層植皮を行った。これまでに当院で経験した隆起性皮膚線維肉腫の7例の傾向とともに報告する。

Section 2 (17:55~18:30)

座長 静岡県立静岡がんセンター 形成外科 中川雅裕先生

4. 皮膚原発 epitheliod hemangioendthelioma (EHE) の1例

済生会今治病院 形成外科¹⁾ 愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班²⁾

済生会今治病院 外科³⁾

○戸澤麻美¹⁾ 森 秀樹²⁾ 井口利仁³⁾

(5分)

39歳女性。初診の3ヶ月前から左膝外側に圧痛を伴う常色のしこりに気づき、2週間前から色調変化と自発痛を生じた。初診時 15mm 大の表面赤色調で軽度隆起する皮下硬結を認め、生検により EHE と診断した。局麻下に 20mm 離して拡大切除、全層植皮術施行。3ヶ月後転移のため鼠径および骨盤内リンパ節郭清術施行、現在化学療法中である。皮膚に生じる EHE は稀で、若干の文献的考察を加えて報告する。

5. 小児ペースメーカートラブルの2例

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班

○見崎麻由 中岡啓喜 森 秀樹 原田雅奈 山下昌宏 松本健吾

(5分)

症例1: 1歳、女兒。Ⅱ度房室ブロックのためペースメーカー挿入されたが、約1ヵ月後に創離開した。再縫合を繰り返されたが離開するため当科紹介され、デブリードマン、再縫合施行された。

症例2: 3歳、女兒。VSD手術2年後に創部から排膿を認め、CTにてペースメーカーのリードの残存を認めた。リードを抜去しデブリードマン施行された。

小児ペースメーカー挿入後のトラブルについて考察を加え報告する。

6. 刺青に対する Tissue Expander(TE)のトラブル例

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科形成外科診療班

○森秀樹 中岡啓喜 山下昌宏 松本健吾 見崎麻由

(3分)

21歳男性。他院美容外科で TE による右上腕部の刺青切除を受けたが、同時に残存部に対し再度 TE を挿入された。術後縫合部の皮膚が壊死に陥ったため当科受診した。

7. 整復困難な下顎骨体部骨折整復の一例

愛媛県立中央病院 形成外科

○李 龍二 小林一夫 中川浩志 徳永和代 尾崎絵美

(3分)

症例は12歳、女性。2009年9月28日、幻暈により転倒した際下顎部を強打した。受傷直後に明らかな症状認めなかったが、受傷後3日目に咬合のずれを自覚し当科受診となった。顔面CT施行し、下顎骨両関節突起骨折および下顎体部骨折と診断。関節突起骨折は保存的治療を、体部骨折に対して観血的整復を行った。体部骨折により下顎歯列の横径が拡大しており、整復困難な咬合不全を呈していたが、下顎骨を正中骨折線で再離断し、良好な整復を得られたのでここに報告する。

Section 3 (18:30~18:55)

座長 石川病院 形成外科 田中伸二先生

8. 高齢者前腕再接着の1例

愛媛県立中央病院 形成外科

○尾崎絵美 小林一夫 中川浩志 徳永和代 李 龍二

(3分)

上肢切断再接着の機能的予後に影響する因子には受傷時の切断レベル、損傷状況などがある。また若年者に比べ高齢者では再接着後に関節拘縮などを起こし易く、機能回復が困難である。今回われわれは80歳男性の電気ノコギリによる左前腕末梢1/3での完全切断を経験した。再接着を行い、骨間筋の萎縮はあるが、ゴルフが可能な程度までの機能回復を認めたため報告する。

9. 当院で行っている頭頸部再建時の内頸静脈本幹への端側吻合の実際

静岡県立静岡がんセンター 形成外科

○永松将吾 中川雅裕 茅野修史 小泉拓也 松井貴浩 桂木容子

(5分)

当院では、頭頸部再建時のレシピエント静脈に内頸静脈本幹への端側吻合を第一選択としている。外頸静脈と異なり、動脈に合わせ吻合部の位置を設定できること、流量が多く、静脈弁が無く、血栓形成が生じにくい、などの利点がある。ただし、吻合に際しては端々吻合とは異なった一定の注意が必要である。実際の手技につき、体位や血管吻合前のsettingを含め、動画を交えて紹介する。

10. 糸を用いた釣り針抜去術（string 法）の経験

愛媛労災病院 形成外科

○加藤嘉秀

（3分）

釣り針刺傷の際に釣り針を除去する方法としては皮膚に小切開を加えて除去する方法が一般的である。これは、釣り針にかえしがあるためであるが、われわれは、釣り針を切開を加えずに糸を用いて除去する方法があることを知り試したところ、局麻、切開等することなく簡単に除去できることがわかった。まだ症例は2例と少ないが、有効な方法であると思われるので若干の考察を加えて報告する。

愛媛形成外科研修会総会（18:55～）

1. 愛媛県医師会に対し形成外科分科会設立要望
2. 次回研修会の日程
3. その他